

病気療養児等に関する実態調査回答要領（特別支援学校用）

※ 本回答要領は、調査対象の考え方や具体的な回答について示すものです。

調査の配布や回収の流れについては実施要領を参照してください。

Excel の操作方法についてはツールマニュアルを参照してください。

1. 調査票①の回答要領

必ず調査票①を確認してから調査票②に進んでください。

- ・ 調査票①では、貴校が調査対象に該当するかどうかを確認します。
- ・ 調査対象 1) ～ 4) のうちどれか 1 つでも該当する学校は、フィルターで学校名を選択（※）し、調査票②に進んでください。
 （※フィルターの使い方：学校名の右下の「▼」を押す→「すべて選択」を押して全ての学校から「✓」を外す→学校名を検索し、「✓」を入れる。）
 （※ 1 つの回答票で複数の学校について回答することはできません。1 校のみを選択してください。）
- ・ **いずれにも該当しない学校は調査への回答は不要です。**

＜調査対象 1) ～ 4) の考え方は、以下のとおりです。＞

1) 令和 4 年 9 月 1 日時点で、病院に入院していた児童生徒が在籍していた学校

令和 4 年 9 月 1 日時点で病院に入院していた児童生徒が 1 名以上いる学校が該当です。

入院の事由や期間は問いません（数日で退院した場合も含みます。）。

2) 令和 4 年 9 月 1 日時点で、病院内に特別支援学級があった小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校前期課程

令和 4 年 9 月 1 日時点で病院内に特別支学級があった学校が該当です。**同時点で在籍者数が 0 名であった場合も、病院名や学級数に関する回答欄があるため、調査対象に該当します。**

3) 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日の期間で下記条件に該当する児童生徒が在籍していた学校

令和 4 年度中に、条件①に該当する病気療養児が在籍していた学校が該当です。病気療養児が年度途中に転学した場合は、条件②に該当する学校が回答してください。

条件①（病気療養児の定義）

本調査では、疾病や障害に関する医師等の専門家による診断書等や、文部科学省が就学事務の参考資料として作成し配布している「障害のある子供の教育支援の手引」に示され

た障害種ごとの障害の状態等を基に、年間延べ30日以上の欠席（＊）という状況を一つの参考としつつ、各学校又は教育委員会が判断する児童生徒。

（＊）欠席日数には、教員が病院や自宅等を訪問するなどして対面で、あるいは、ICT 機器を活用して遠隔で授業を行っているため、欠席にはなっていないものの、在籍する学級に通学できていない日数をも含む。

条件②（病気療養により転学した場合の取扱い）

病気療養のため他校から貴校に転学し、病気療養中に在籍していた児童生徒については回答すること。

病気療養のため貴校から他校へ転学し、病気療養中は貴校に在籍していなかった児童生徒については回答不要。

条件①について、本調査における病気療養等による欠席には、新型コロナウイルス感染症の感染や、感染への不安で登校できなかった場合の日数は含みません。

条件②については、病気療養児が病気療養により転学した場合、病気療養期間中に主に在籍していた学校が本調査に回答してください。

- （例）・A 学校在籍生徒が、病気療養のため B 特別支援学校に転学→B 特別支援学校が回答
・A 学校在籍生徒が、病気療養のため B 特別支援学校に転学、病状が回復したため令和 4 年度内に A 学校に復学→B 特別支援学校が回答

※どちらの例の場合も、A 学校は当該生徒について回答不要です。

4) 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日の期間で高等部に在籍し、訪問教育を受けた児童生徒が在籍していた特別支援学校

高等部において、訪問教育を受けている生徒が一人でもいる学校は回答してください。

2. 調査票②の回答要領

- ・ 1) ～ 4) のうち、該当する間のみ回答してください。
- ・ 3) は、令和 4 年度中に在籍していた病気療養児等一人ひとりについて回答するものです。3) の回答要領は以下のとおりです（※ 4) の回答要領は p. 6 にあります。）。

3) の回答要領

1 所属

対象学校種を選択してください。学年を選択してください。

2 主傷病カテゴリ、主傷病名

当該生徒の主傷病についてカテゴリを選択し、具体的な傷病名については分かる範囲で記入してください（複数の傷病がある場合も、主たる一つを記入してください。）。

3 療養場所

療養等で欠席していた際の療養場所について、入院、自宅、入院自宅両方の 3 つから選択してください。

4 欠席日数

出席簿や指導要録等を参考に、入院や療養等のため学校を欠席したおおよその日数を記入してください。※詳細な日数でなくても差し支えありません。

5 学籍の異動等（転学）

病気療養により他校から貴校への異動があった場合は a～g のうち当てはまるものを選択し、5 ①～④の問に進んでください。なお、貴校から他校への異動については回答不要です。

他校から貴校への異動がなかった場合は、h (f) を選択し、6 に進んでください。

(例) ・ 貴校から、病気療養のため他校に転学 → 「h (f) 転学なし」

・ 貴校から、病気療養のため他校に転学、病状が回復し貴校に復学
→ 「h (f) 転学なし」

・ 他校から、病気療養のため貴校に転学 → a～g (a～e) から当てはまるものを選択
なお、「その他」は、インターナショナルスクール等を想定しています。

5 ①～④ 学籍の異動等（転学）があった場合のみ回答

① 実施した支援

転学に伴い実施した支援について、a～h から当てはまるもの全てに○を付けてください。

- ・「b 前籍校との交流及び共同学習の実施」を選択した場合は、「b-2 副次的な籍を作成している」について、作成している場合は○を付けてください。
- ・「h その他」を選択した場合は、自由記載欄に具体的な内容を記入してください。

② 在籍していた日数

学籍簿等を参考に、他校から転入し、貴校に在籍していた日数について、1月以内、3月以内、半年以内、半年以上の中から選択してください。

③ 令和4年度中の復学の有無

本調査における復学の定義は、病気療養等のため転学した学校から、元いた学校に戻ることです。

④ 転学や復学の希望があったができなかったことがあるか

保護者や本人が転学や復学を希望しができなかった、ということがあるか、ある場合はその理由について簡潔にお答えください。

6 進級等の状況 ※高等学校段階のみ回答

高等学校段階のみ、当該児童生徒の令和4年度末の進級等の状況について、a～d から当てはまるものを選択してください。「d その他」を選択した場合、自由記載欄に具体的に記入してください。

7 同時双方向型授業

当該児童生徒に対する、令和4年度中の同時双方向型の授業の実施の有無を回答してください。実施している場合は7-1、実施していない場合は7-2について回答してください。

7-1 同時双方向型授業（実施している場合）

- ① 使用している ICT 機器（例：GIGA スクール構想の一人一台端末の iPad）
- ② 通信環境（例：学校でルーターを貸し出している、病院内の Wi-Fi を使用、など）
→ いずれも例を参考に記入してください。
- ③ 通知を踏まえて「出席扱い」又は単位の認定や評価の対象としたか。
しなかったと回答した場合はその理由を記入してください。

（参考）

義務教育段階の病気療養児については、平成 30 年文科初第 837 号の通知に基づき、同時双方向型授業配信の実施により指導要録上「出席扱い」とすることが可能。

高等学校段階の病気療養児については、平成 27 年文科初台 289 号、令和 2 年文科初 259 号等の通知に基づき、同時双方向型の授業の実施により、単位認定することが可能。

④ 活用場面

同時双方向型の授業を活用した場面について、a～f から当てはまるものすべてに○

を付けてください。

→「a 教科・科目を限定して実施した」を選択した場合、「a-2」に実施した教科・科目を記入してください。

⑤ 活用頻度

体調が悪かったり、検査等で授業を受けられなかったりした場合を除き、同時双方向型の授業を活用した頻度について、週に1日程度～週に5日程度の中から、最も近いものを選択してください。

⑥ 1日の使用時間

体調が悪かったり、検査等で授業を受けられなかったりした場合を除き、同時双方向型の授業を実施した時間として、1日1時間以内～1日4時間以上のうち、病気療養期間を通しての平均に最も近いものを選択してください。

7-2 同時双方向型授業（実施しなかった場合）

実施していない理由として当てはまるものをa～jから選択してください。「j その他」を選択した場合は、自由記載欄に具体的に記入してください。

8 指導や支援

令和4年度中に実施した、同時双方向型の授業以外の指導や支援の有無を回答してください。実施した場合は8-1、実施しなかった場合は8-2について回答してください。

8 指導や支援（実施した場合）

① 実施した指導や支援の内容と実施方法

a～hの指導や支援のうち、令和4年度中に実施したものについては、「対面」、「ICT」、「両方（対面の方が多い）」、「両方（ICTの方が多い）」、「両方（対面 ICT 同じくらい）」から当てはまるものを選択してください。**実施していない指導や支援は空欄のままで結構です。**

なお、選択肢について、「a 教員を派遣して行う教育」は対面、「g テレプレゼンスロボットの活用」及び「h オンデマンド型の学習支援」はICTのみとなっています。

② 学習支援を実施した科目

学習支援を実施した場合は、実施した科目について自由記載欄に記入してください。学習支援を実施していない場合は空欄のままで結構です。

③ 使用した教材

使用した教材がある場合は、自由記載欄に記入してください。ない場合は空欄のままで結構です。

8 指導や支援（実施しなかった場合）

実施していない理由として当てはまるものをa～iから選択してください。「i その他」

を選択した場合は、自由記載欄に具体的に記入してください。

- ・調査項目 4) は、令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日までの期間で高等部に在籍し、訪問教育を受けていた生徒について回答するものです。4) の回答要領は以下のとおりです。

4) の回答要領

○ 貴校の高等部で訪問教育を受けていた生徒の人数

令和 4 年度に貴校の高等部に在籍し、訪問教育を受けていた生徒全員の人数をお答えください。

○ そのうち、ICT を活用した授業を実施した生徒数

令和 4 年度に貴校の高等部で訪問教育を受けていた生徒のうち、ICT を活用した授業（同時双方向型の授業やオンデマンド型の授業）を受けていた生徒数をお答えください。

- ・ **この人数が、これ以降の問に項目に回答する人数になります。**
- ・ **0 名の場合、調査はここで終了です。**

1、2、5、6、7、9については、3) の回答要領の該当箇所を参照してください。

3、4、8について、以下に回答要領を示します。

3 訪問場所

訪問場所について、自宅、病院、施設の 3 つから選択してください。

4 訪問回数

訪問回数について、週に 1～5 日程度のうち、最も近いものを選択してください。

8 オンデマンド型授業

まず、当該児童生徒に対する、令和 4 年度中のオンデマンド型の授業の実施の有無を回答してください。実施している場合は 8-1、実施していない場合は 8-2 について回答してください。

8-1 オンデマンド型授業（実施している場合）

- ・ 使用している ICT 機器（例：GIGA スクール構想の一人一台端末の iPad）
- ・ 通信環境（例：学校でルーターを貸し出している、病院内の Wi-Fi を使用、など）
→いずれも例を参考に記入してください。

- ・ 通知（※）を踏まえて単位の認定や評価の対象としたか。
しなかったと回答した場合はその理由を記入してください。

（参考）

※訪問教育における ICT の活用については、平成 27 年 4 月 24 日付け「特別支援学校高等部学習指導要領解説の一部改訂について（通知）」（27 年文科初第 195 号）を参照。

- ・ 活用頻度

体調が悪かったり、検査等で授業を受けられなかったりした場合を除き、同時双方向型の授業を活用した頻度について、週に 1 日程度～週に 5 日程度の中から、最も近いものを選択してください。

- ・ 1 日の使用時間

体調が悪かったり、検査等で授業を受けられなかったりした場合を除き、同時双方向型の授業を実施した時間として、1 日 1 時間以内～1 日 4 時間以上のうち、病気療養期間を通しての平均に最も近いものを選択してください。

8-2 オンデマンド型授業（実施しなかった場合）

実施していない理由として当てはまるものを a～j から選択してください。「j その他」を選択した場合は、自由記載欄に具体的に記入してください。